

作者の「とげば

小さいころから読書が好きで、現在に至るまで読書が趣味の私ですが、創作活動に自分が足を踏み入れるようになると思ってもみませんでした。書くことに興味はあったものの、自分には創作などとてもできないだろうと思いついておりました。

そんな私が童話を書き始めたのは、一年半ほど前に、新聞広告でカルチャースクールに小説講座があることを知り、なんとなく面白そうだと思って受講したのがきっかけになっています。

小説講座で、小説の書き方を教わり、教室内で習作を書くうちに、自然と童話のモチーフが浮かぶようになりました。

「やんばるの森のハブ君」は、そんな習作を基に仕上げた、私にとってはじめての童話です。この童話を仕上げたのは昨年末

で、完成後は自宅の押し入れの中でひっそり眠っていた作品だったのでですが、小説講座の先生から「ふくふく童話大賞」のこゝとを教えていただき、「ハブ君」は、再び押し入れから引っばりだされることとなりました。

そうして応募しただけで十分に満足していたはずの「ハブ君」が、今回思いがけず受賞しましたことは、大変ありがたく思っております。沖繩らしいモチーフにこだわって書いたものですので、沖繩の文学賞をいただいたことに、喜びもひとしおです。

いつもご指導いただいている作家の長堂英吉先生と、一緒に学ばせていただいている小説教室の皆さまに、あらためて御礼を述べたいと思います。本当にありがとうございました。

今後の目標ですが、童話をこゝれからも書き続けていくことと、少しずつではありますが創作活動に慣れてきたということもあり、大人向けの小説などにも着手できればと思っております。「ふくふく童話大賞」にも来年以降、再びチャレンジすることができればと思います。

優秀賞受賞の喜びを語る佐藤允美さん―那覇市内の自宅

こだわった「沖繩らしさ」

